

サロンのあべの

Vol. 116

手をつなげたら、うれしい。



写真提供・山野荘一氏

サロンの新年会

サロン・あべの1月の出会い「ク」において開催しました。

96年1月20日(土)、毎年1

月恒例の新年会をホテルエコー

オーサカ9階「ラウンジ・パー

ク」において開催しました。

一昨年、昨年に引き続き3年

連続になりますが、今年も「ラ

ウンジ・パーク」でお世話にな

りました。とてもおいしいお料理で、毎年参加者の方々からも好評を得ています。しかも、窓からの眺めが上々。お店の一番奥の広いスペースを提供していただいているので、車椅子での参加にも都合が良く、安心してお任せできる数少ないお店です。キリングループのお店ということで、乾杯用のビールももちろん「キリンビール」でした。

さて、今回のお料理「パークランチ」について解説いたします。

まず、オードブルの「海の幸のサラダ」は、鮪、蛸、海老、いくらなどのお刺身に、海藻と共にトマト、オリーブ油などで調理したドレッシングをかけたもの。和食の代表とも言えるお刺身と洋風ドレッシングの組み合わせは、ちょっと珍しくて、とてもおいしかったですよ。その後出たコーンポタージュスープもリッチなお味でした。そし

て、メインのお料理は、「帆立 でした。

貝柱とキノコのボンヌファヌ風

ライス、サラダ、一口フルー

です。白ワインでやわらかくゆ

ツに、食後の珈琲まで付いてい

でた貝柱とキノコに、生クリー

で、ランチと呼ぶにはもったい

ム、オランダーズソース(卵黄

ないほど内容の濃いお料理ばか

とバターで作った温かいマヨネ

りでした。

ーズの様なソース)などで作っ

年に一度のレストランでの会

たソースをかけて、オープンで

食。おいしいお料理に比例して、

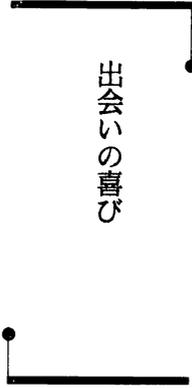
焼き上げたグラタン。ソースが

会話も和やかに弾んでいました。

たっぷり、帆立貝柱のやわら

参加者31名。(上平幸雄)

出合いの喜び



ホテルエコーのエレベーターを降りると、

そこはもうサロンの出合いの場。懐かしい

顔・顔。クリスマスで出会った人も、久し

ぶりに会った人も同じように懐かしく嬉し

い出合いと感じるのは、新年会ならではの

華やきがあるからでしょうか。

四コーナーのテーブルに分かれた人たち

で、話の輪がにぎやかに拡がっていく。私

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

「クスノキのうた」発売

シャンソン歌手奥田真祐美さんの
新作「クスノキのうた」(作詞
=奥田真祐美・作曲=さとう宗幸
)がシングルCDとして発売され
ます。「愛のバラード」との2曲
入りで、両方のカラオケも入っ
ています。(楽譜別売り)

発売…3月2日(土)

1部…1000円(税込み)

お申込みは下記迄お願いします。

奥田真祐美 (〒545)

大阪市阿倍野区西田辺町1-20-34

TEL・FAX (06) 692-8774

が席に着いたテーブルには、奈良県からお
母さんとお友達と三人で参加されたNさん
がおられた。食事をしながら、あれこれ言
葉を交わす。家では何もしないと言わ
れながら、会わない間に車の運転免許を習
得されたと同う。お友達と遠出もして、行
動範囲も拡がっておられるよう。一見メカ
には縁のないような雰囲気を持っている方
なのに。そのファイトと実行力に感心し、
心からエールを送りたいと思った。

自動車椅子に乗れるので、サロン活動にも参
加出来、気軽に寄り道もできる。この日
も帰りは、熊野街道を南下して「わがまち
阿倍野」の名所旧跡をIさんと散策した。
辻一つを曲がるだけで、昔の姿そのまま
の屋敷が在る。

「焼けなかったんですね」
「そうやな」

その次の辻には、見上げてても目が届かな
いような高層マンションが建設されている。
まるでタイムスリップしているみたいとつ

ぶやきながら、先程の会話が思い出されお
もわず笑いが込み上げてきた。

(K)

福袋の楽しみ

毎年、サロンの新年会で楽しみにしていることは、お料理と福引です。

天王寺公園を見わたせる見晴らしのよい場所で、今年は何かなお料理が出てくるかしらと思ひながら、皆さんとおしゃべりに

興じています。今年は目先の変わった和風

料理でした。その後の楽しみは自分が選んだ封筒に入っている番号で、福袋が当たることです。この福袋には手作りの品がかならず入っています。私はクジ運がよいのかいつも大きな手作りの品物が当たります。昨年は編みぐるみのかわいい顔のワンちゃんでした。今年は何かしらと期待しながら待っていましたら、今年も当たりまし

た。手作りのやさしい顔のピエロ人形が。

空くじなしの福引ですが、当たるまでのワクワク気分と手にした時の喜びは、新年会を実感する一時です。福袋に入っている手作りの品々はサロンを応援されている方が毎年作って下さっているそうです。

新年会に華を添えてくださる温かいお心が、ありがたく思います。

(M)

★愛し愛されるつながりの外に

私のまだ知らない、遠くから聞こえる声に耳を傾けよう。それは、私たちが助け助けられ、愛し愛されているつながりの外から聞こえてくる声だ。

助け助けられ、愛し愛される人のつながりは美しい。しかし、それが最良のものであるとはかぎらない。なぜなら私たちが本当に助けられたと感じるのは、自分が助けていない人から助けられたときだから。愛してはいないのに愛されたとき、私たちは、心ふるえる愛を感じる。愛するから愛されるというのは、互いの約束のうえに成り立った愛だ。助けて

いるから助けられるのも、助けあう約束があるからできている。ほんとうに助けを必要としているのは、助けあう約束を誰ともむすんでいない人たちである。

たとえば、貧しい国のみなごたちは、多くの助けと愛を必要としているが、愛し愛される約束はしていない。助けあい、愛しあう約束もなく生きる人たちは、愛することがなかった人から愛されることを求めている。

では、その求められる愛を誰が与えるのか。私たちは、愛を受けなかった人に愛を与えることができるだろうか。それ

は、もはや人間の愛ではなく、神の愛ではないのか。

いや、そうではない。私たちが、この世界を恨み、自分の運命を呪っていないのなら、それはすでに愛することなく愛されてきた証拠だ。そのことに、すこし気づくだけで、私たちは愛されることな

く愛することができるようになるだろう。自分のいまの直接的な人間関係だけに目をむけているかぎり、私たちは、愛する分だけ愛される約束のもとに生きている。その意味で、受ける愛と与える愛には、ある程度の釣り合いが保たれている。

作る つくる 創る

河合恵子

寄席の魅力

お笑いといえれば近年テレビでよく見るのは、吉本新喜劇の芸人さん達。東京の落語家を何人かまとまって見ることが出来る番組は「笑点」ぐらいでしょうか。けれども、東京には現在、寄席（定席）が上野の鈴木演芸場をはじめ、新宿・末広亭、浅草演芸ホール、池袋演芸場、国立演芸場、お江戸日本橋亭と六軒。そこではいつでも落語家の表情を真近に楽しむことができます。また、ホールでの落語会も盛ん。寄席は江戸時代、寛政年間に誕生したそうですから、約二百年、江戸の庶民を楽しませてきたことになりました。なかでも鈴木演芸場は創業から約百四十年。席亭

と呼ばれる寄席の経営者も八代目。でもいまはビルの寄席。同じくビルでもお江戸日本橋亭は狭いけれども畳敷き。オフィス街の憩いの場です。



大黒様とねずみと宝箱

そして昭和二十一年に始まったという末広亭には独特の文字で書かれたまねきが掲げられ、情緒たっぷり。内部には、棧敷席もあります。十二時から四時半の昼の部、五時から九

時半の夜の部それぞれ三十人近くの芸人さんが各々のお囃子にのって登場。仕事の帰りに円蔵さんや志ん朝さんの落語で浮き世の憂さ払い。

さて現在東京には何人の落語家がいると思いますか？ 答えはなんと、三三四四名。その内、真打は二三三名、二ツ目は五二名、前座は四九名。落語家以外の奇術（手品）・紙切り・曲独楽など色物は九七名、お囃子は二五名で関係者の総数は四六六名。意外に多くの人が寄席演芸にたずさわっていると思いませんか？

寄席の興業は一ヶ月を分けて一日から十日を上席、十一日から二十日を下席、二十一日から三十日を下席と呼ぶそうですが、二月の下席。さて、どこへ行って笑いましょうか。

hit my son when no one was looking called him names + once tried checking him! I did the house cleaning + laundry for the ten of us. They have 7 kids. 3 babies sat the 2 little kids. Her youngest is my God child. I only get to see her once maybe twice y I'm lucky. I do miss her. She was 17 1/2 years and was just learning to love me. I'm afraid when I see her again

5
She will have forgotten me. That's the hard part of living this far away from family. George brother lives 500 miles away and one sister does too. His other sister lives in California. In fact she introduced us. I was her best friend and George came out to visit her. My family all live in California.

Well I need to put ~~them~~ this in the mail. Fondly Ruth

Jan 9, 1996

Dear Keiko and family:

I hope you and your family are doing fine. My children and I are doing well. My husband is in lower Michigan 500 miles away. He had knee and leg surgery on Dec 22. He has a Dr appt today. If he is doing better he will try to come home

in the next couple of days. Usually he drives straight home but because of his surgery he will take 2 days and stay overnight at a childhood friends house.

What do you do each day to get busy? Do you work at home or out? Do you have children.

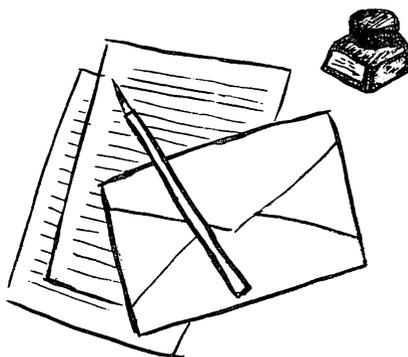
Take Care and God Bless

I'm sending you a calendar so you can see what it looks like where we live

族がそれぞれ独立して遠く離れて暮らしていることはつらいことですね。ゲーリーの兄(弟)が500マイル離れて暮らし、もう1人の姉(妹)もそうです。他の姉(妹)はカリフォルニアにいます。私は彼女の最良の友でゲーリーは彼女のところを訪ねてきていました。(昔の話?)私の実家の者は皆カリフォルニアにいます。では、そろそろ筆を置きます。

愛をこめて

パティーより



親愛なる慶子さんへ

あなたもあなたのご家族もお元気でいらっしゃいますか。私と子供は元気です。主人はここから500マイル離れたミシガン南部にいます。彼は12月22日にひざと足を手術しました。今日、彼は医者から概略説明をうけました。もしうまくやれば来週2、3日うちに帰ってもよいとのことでした。普通だったら真っすぐに車でうちへ帰るのですが、手術しているのに2日かかって幼なじみの友達のうちに一泊することになるでしょう。

忙しい毎日をどのように過ごしていらっしゃるのですか。家庭か、それとも外で仕事をしていらっしゃるのですか。子供はいますか。

ではお元気で、神様の祝福がありますように。

P.S カレンダーを送ります。私たちが住んでいるところがどんなところかわかりになられると思います。

パティー・トラッキー

アメリカからの手紙

Jan 3, 1996
Dear Keiko
I am so thankful you wrote back!! I've written quite a few letters but they kept returning my letters. I don't think I put the numbers 6-3-26 on right. I have been praying you would write again. I didn't want you to ~~think~~ think I didn't want us to be friends. Tell your friend Kyoko I would be happy to exchange letters with her.

2
I hope you had a good Christmas. Unfortunately we had the flu the kids and I opened our gifts and then laid back down. We are now starting to feel better. I take us awhile because our immune system is weak. My husband had surgery on Dec 22. They had to break and reset the lower leg bones. He had to go to a Dr 500 miles away. We've never been separated

3
this long before. The last time we went down for him to have a tumor biopsied we ended up staying there for 4 months! We had to enroll the kids in the school there. We stayed with his brother but families in the USA don't share houses, cars. Sometimes they don't share time together! So they complained and his kids (my husband's brother) got down right mean and awful. The one boy is a couple of months older than mine. He wanted

親愛なる慶子さんへ

お返事をいただいてありがとうございます。何回か手紙を書いたのですが、戻ってきませんでした。6-3-26番地を正しく書かなかったからだと思います。私はまたあなたが手紙を下さるようにと祈っていました。

私が友達になりたくないと思っていると考えて欲しくなかつたのです。

あなたの友人の享子さんに文通できたら幸せですとお伝え下さい。

楽しいクリスマスを過ごされたことと思います。二人のこどもと私は運悪くインフルエンザにかかってそれぞれの贈り物を開けてからそれらをまた元へ戻しておかなければなりませんでした。私たちは今よくなりつつはあるのですが、何しろみんな免疫機構が弱いので(良くなるまで)しばらく時間がかかります。

私の主人が12月22日に手術を受けました。ひざ下の骨を切って整形しました。主人は病院まで500マイルもいかなければなりませんでした。主人と私は今までこんなに遠く離れたことは一度もありませんでした。こ

の前、彼は腫瘍の生体組織検査を受けました。そして全部が終わるまで4ヵ月も滞在しました!

私たちは子供たちをその学校へ転入させなければなりませんでした。私たちは彼の兄(弟)の所に滞在しました。しかし、アメリカでは家族は家や車、時には時間も共にすることをしません! それで彼らは文句を言ったり、その子供(私の主人の兄(弟)の)は意地が悪くひどいことをします。ひとりはおちの子より2、3ヵ月上です。彼は私の息子をたたいたり、誰も見ていない時は彼を呼んで彼をくくりつけたり?もしたのだと思います。

私は家のそうじと我々10人分の洗濯をしました。彼らには2人の赤んぼと2人の小さな子供がいます。彼女の一番小さい子は私の名付け子です。一度でなく二度会えたことは幸せです。彼女に会えなくなるのはさびしいです。彼女は1歳半です。そして私を好きになり始めたところです。今度彼女に合う時が不安です。多分私を忘れていてでしょう。家

連載 二十八

高齢者と在宅介護

井元 いもと
真澄 ますみ

五 震災被災地域の住民生活実態

〈被災地における実態調査より〉(7)

《おわりに》

今回で、震災時の支援関係についての連載は終了します。いままで見てきた調査結果より、いくつかの点について述べていきます。

震災時の支援内容と支援者についてですが、内容と人に、特徴があったことがわかります。よく、震災を契機に「地域の連帯が深まった」という話を耳にしますが、調査結果で、給水場からの水くみを近隣で支えあっていったことより、水くみをお互いに手伝ったり、給水時間について情報交換したりということが近隣の結びつきを強くすることに影響したとも考えられます。ただ

し、「水くみ」というのは震災時の一時的なものですので、現在も近隣関係が継続しているかどうかについては、別の調査を行っているところでは、別の調査を行

また、家のかたづけや買い物など、個人の生活に関係の深いことについては、身内の者が支援していたことがわかりました。

さらに、今回の震災で非常に注目されたボランティアについては、食料の炊き出しが主な支援内容であり、その他の項目では、在宅生活者についてはあまり高い割合はみられません。仮設住宅入居者については、水くみや買い出しについても、支援がみられます。それにしても、ボランティアの活躍が大きく報じられてきたことからみると、以外に見えるかもしれません。ただし、この調査は、「被災者の目から見た支援」の結果であることを考慮すると、納得

がいきます。たとえば、救援物資の仕分けのように、被災者を影で支えたような援助は、今回数字として出てきていないのです。しかしながら、この調査より、ボランティアが支えたもの、また、ボランティア以外の人が支えたものが何であったのか、少し明確になったと考えられます。震災を契機に注目されたボランティアの今後が模索されている現在、ボランティアとして支えることは何であるかということを考えるきっかけになればと思います。

最後に、この調査で用いた「在宅生活者」と「仮設住宅入居者」という区分について、若干補足しておきます。

両者は、調査時点で、在宅で生活していた者、仮設住宅で生活していた者です。よって、調査以前には、避難所にいたり、親

戚の家にいたりした者もいます。「仮設住宅入居者」は、入居以前は避難所にいた人がほとんどで、「在宅生活者」では、それ以前も自宅にいた人が多くなっています。が、親戚の家にいた人や、避難所にいた人も少なくありません。

また、調査の時期が両者で若干異なることも、最初(《調査の方法》のところ)に書いておられますが、改めてお断りしておき

ます。在宅生活者は、平成七年二月二日から三月七日、仮設住宅入居者は、三月一日から二二日です。前者のときは、当時あまり取り上げられなかった在宅で生活している者について、一刻も早い実態調査をとることで行い、後者については、仮設住宅に対する意見も把握するという目的もあったため、仮設住宅に入居するのを待って行ったといういきさつがありました。

よって、両者の結果については、それぞれに結果を見て、考察を加えることは可能ですが、統計的に比較するということは困難であることをお断りいたします。ただし、本調査は、学問的な探究心から発しているのではなく、被災者の実態や声を明らかにし、復興の基礎資料となることを目的としたものであるゆえの結果であることをくんでいただきたくお願い申し上げます。

美智子のこんな話

岸田 美智子

「施設障害者にもガイドヘルパー制度
適用」を大阪府はOKしたけれど!

私たちライフネットワークとして六年間

訴え続けてきた地域障害者の制度であるガイドヘルパー制度が、やっと施設障害者にも昨年の秋から適用されるようになりました。そして、大阪府がOKを出したそのすぐ後に、私たちライフネットワークでは各区役所に問い合わせをして、施設障害者の人と一緒にこの制度を利用しようと申請をしに行ってみました。その結果、すんなり受け入れてくれ、実際に施設障害者がこの制度を利用して出掛けることができたのは一九九六年一月現在のところ枚方市・豊中市・八尾市・松原市の四市だけでした。他の市町村は他の市の出かたを見ているようですし、ひどいところは申請も受けつけてくれず「検討します」という答えだったり、

「大阪府はグループホームにもガイドヘルパーを適用しろと言ったり、施設障害者にも適用しろと言ったり、もう目茶苦茶なことを言ってくる」などと、私たちにぼやいてきたりしています。大阪府と各市町村との連携がまだまだうまくいっていないようです。このように大阪府が説明不足で実際に運用する時の問題をはつきり把握し、市町村と一緒に考えていこうとする姿勢が今後問われるのだと思います。

在宅だけでもヘルパー数が足りず、おまけにヘルパーさんたちと障害者たちをコーディネートするコーディネーターが予算もなく兼任のところが多いそうです。また、施設に迎えに行こうとすると、入所施設は

辺鄙などところにあることが多く、そのヘルパーさんの交通費が多額になり、予算を圧迫するので、各市では実施に踏み切ることができないと思われまます。

このように各市町村が実施に踏み切るにあたって、出てくるであろう問題に大阪府としてもどのような応援をしていくのかが問われます。その具体的な案を持ちながら各市町村を説得していったほしいものです。大阪府のほうでは、ヘルパー派遣促進事業というのがあります。これは、各市町村で前年度のヘルパー予算に比べて増えた部分を府が補助するという制度なのですが、こ

もう、春

春立つ。春来る。寒明け。外界は昨日までの冬とさして変りはないが、立春と聞くだけで心に春が宿るのであろうか、あらゆるものを明るく気持ちで眺められるようになる。なにがなんでも「かるた」です。

鱈 きた毎子一五〇円

の制度を各市町村に詳しく伝えていないようです。

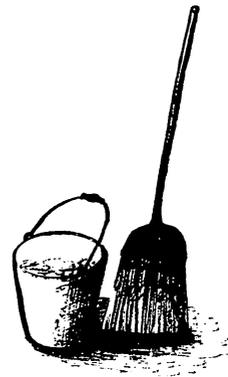
この制度のことなども、もっともっと詳しく伝えてほしいと思います。そして最後の問題として、このガイドヘルパー制度が施設障害者にも適用されることになったのですが、当の本人である施設障害者のかたがたが、どれだけ知っておられるかが問題です。

大阪府は、「各施設には施設長会議で説明した」と言っていました。この各施設長が積極的にガイドヘルパー制度を利用するかどうか分からないし、入所者である施設障害者一人一人に伝えることはしないだろうと思われまます。施設によっては、外出を規制しているところがまだまだ多いのですから……。

私たちライフネットワークの活動で、会員のかたたちには知らせることができませんが、それ以外の多くの施設障害者のかたがたにはどうやって伝えていくかが今後の問題です。これを読まれたかたがたの中で、もしも施設障害者のかたと知り合いのかたがいらっしゃいましたら、是非伝えてあげて下さい。このような一人一人の動き

が、大阪府のOKした意味につながってほしいなと思っています。

みなさん、是非ご協力お願いします。



掃除ざらいのおもしろい姉ちゃんに共感

「ハサロン・あべのV(一一二号)紙、ありがとうございます。」

今回の田淵美登利さんの「おもしろい姉ちゃん」は、掃除・整理が大の苦手である私には、共感をもって読んでいました。

「私とよく似た人がいるんだな」と、安心してよいのやら……。

ハサロン・あべのV紙に載っている文章は、日常にソツと目をむけていて、気付かされるところが多いです。

では、お元気で……。

D・M



サロン隣組ニュース

■「ウイズ東淀川」

○ウイズ東淀川の出会い

日 時・平成8年3月10日(日)

午後2時～4時

場 所・東淀川会館3階(エレベーター利用可)

内 容・「自分が選んだ道」

～アメリカの視覚障害者の現場～

講 師・元日本ライトハウス所長

日比野 清 氏

会 費・なし

問い合わせ先・

電話06-340-3082 (鈴木昭二)

FAX06-320-4004 (宮脇 均)

■「サロン淀川」

○サロン淀川3月の出会い

日 時・平成8年3月17日(日)

午後1時30分～4時

場 所・淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」

[大阪市淀川区三国本町2-14-3]

テーマ・・「手品から何かを伝えたい」

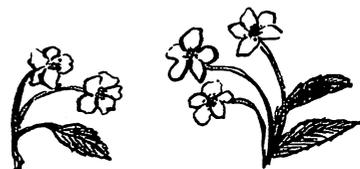
パネラー・・阿倍野マジッククラブの方々

会 費・なし

問い合わせ先・☎06-394-2900

大阪市淀川区社会福祉協議会

ボランティア・ビューロー



<サロン・あべの>十周年記念

THANKS!

<サロン・あべの>は今年3月満10歳を迎えます。

1986年に発足以来、みなさまと共に数々の出会いを作り、ふれあいを育て参りました。10周年、それは単なる通過点にしか過ぎません。しかし、<サロン・あべの>は記念として10周年記念誌「はあとがはろー!」と 絵葉書「わがまち阿倍野」を作ります。

THANKS!

ありがとうございます。みなさまへ心から感謝をこめて。

<サロン・あべの>

お知らせ

サロン・あべのの3月の出会い
 日時 3月16日(土) 午後1時〜4時
 場所 育徳コミュニティセンター研修室
 (阿倍野区阪南町5-15-28)

スロープ、車いすトイレ有り)

テーマ

「サロン10年目の活動に思うこと」

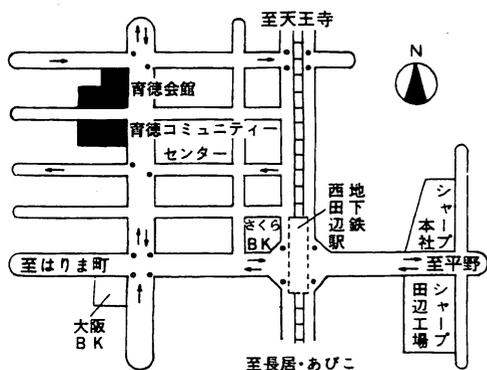
パネラー

上智大学文学部社会福祉学科専任講師

岡 知史 氏

お申し込み・お問い合わせ先

☎06(691)1028 (富田慶子)



感謝します

カンパ、切手、紅茶、飲物、写真、冊子、さらん亭用品等のご寄贈。一筆箋等、お買い上げありがとうございました。

お礼を申し上げます。

旭 純子、大阪義肢装具センター(石原 栄)

小野原俊介、金子花江、木村圭子

阪田富子、崎本ヒサエ、秀 翠

富田慶子、西村勇三、南光龍平

久木 浩、倭 満也子、山野莊一

(匿名二名)

朗読テープのご案内

「アベノ朗読ボランティアグループ」のご協力で、Aサロン・あべのV紙二一五号の録音テープが出来ました。バックナンバーは三九号から、一一五号の分があります。五〇号は、九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は、一二〇分テープ二本にそれぞれ収録されています。又、絵本「未知の記憶」(作・絵 川中勝彦、「ラジオたんぱ」(三〇分)放送の「Aサロン・あべのV平成七年五月の出会い」もあります。いずれもご希望の方には、ダビングをします。富田までお申し出下さい。

☎06-691-1028

FROM EDITOR

編集後記

出会い100回、サロン紙100号などいろいろな節目を通して<サロン・あべの>は今年満10歳。みなさまのおかげです。ありがとうございます。記念に、10周年記念誌「はあとが、はろー」とオリジナル絵葉書「わがまち阿倍野」を企画し、3月の誕生日に間に合わせようと、今、いっしょうけんめい作っています。(石)

編集人; サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.116['96. 2.17.発行] 定価¥1000.

代表; 上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365

連絡先; 富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028

表題; 井上憲一・筆 文中イラスト; 石田美禰子

印刷; セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F

TEL06-719-8212 FAX06-719-8213

発行人; 関西障害者定期刊行物協会 [大阪市城東区東中浜2-10-13 緑橋グリーンハイツ1F]